

船井財団 12 月報告書

松尾理夏

こんにちは。2022 年度学部留学の松尾理夏です。私は現在、University of California, San Diego の学部 1 年生で生体工学専攻です。さて、前回の報告書では留学に至った経緯をお話ししました。今回の報告書では、私の初のサンディエゴ上陸の経験とその後の生活についてお話しします。

まず、9/14 に私はサンディエゴに上陸しました。到着日から非常に暑い日が続き、常夏のイメージがあった私はまさにサンディエゴは暑い場所なのだと思います。また、メキシコからの移民が多いため、大学の学生の割合は、アジア人、メキシコ人が白人に続いて多く、とても多様性があります。カリフォルニア州自体がとても人種的な多様性が豊かで、私はまだ人種差別は受けていません。そのような日々の中で9月の下旬に大学が主催する、Meet the Beach というイベントでは、人生初のサーフィンを体験しました。大学からは徒歩で海に行けるので非常に素晴らしいです。

↓ Meet the Beach



今日で第 8 週目まで終わりました。私が今タームとった授業は、Chemistry, Math, Biology, Analytical Writing Program の 4 つです。まず、Chemistry, Math についてお話しします。講義

は基本的に1人の教授の方が行いますが、そのほかに小グループ（20人ほど）ごとのディスカッションクラスがあります。ディスカッションクラスでは、各自問題を解いて2、3人で教え合います。そして、足りない部分は、TAが教えてくれるのでおもしろい形式だと思いました。学んだ内容としては、主に教養です。Chemistryは、モル計算、化学変化、イオンについてなどを学びました。日本では高校で習うような内容です。しかし、それぞれの単元のFocusも学びます。その場合、シュレディンガー方程式を行ったので、東京大学の前期課程基礎化学に似ていると感じました。Mathは、リミットの計算、平均値の定理、微分を学んでいます。どれも高校で学んだ範囲がまだ多いと感じられます。

↓ Math の授業様子



次に、Biologyの授業は今までのものと少し異なります。授業中には、5択問題が出題され、各自のリモコン（iClicker）で解答を送信します。また、自分が最初に選んだ選択肢について周りの人と議論するように言われます。そして、議論した上で最終的な答えを送信します。毎回異なる席に座るので、毎回違う人と議論できるのが楽しいです。Analytical Writing Programは、端的に言うともライティングを伸ばすクラスです。主に、カリフォルニアについての記事を読んでそれらをまとめたエッセイを書きます。4つの記事をもとにして、4人の著者の立場を明確にしながら1週間に1つのエッセイを書きます。毎日課題があり、大変ですが、アメリカでしか受けられない授業だと思うので毎回ワクワクしています。3人の小グループに分かれて、お互いのエッセイを添削する必要があり、難しいです。

また、私は Biomedical Engineering Society に入ったので、ボランティアを Outreach 部門の一員として行いました。具体的には、11/8 の Light the Night という白血病患者達を励ますイベントでボランティアとして運営を手伝いました。このイベントは白血病を乗り越えた患者達が灯籠を持ってランウェイを走ります。特に、私達は灯籠づくりを行いました。夜に彼らの持ったさまざまな色の灯籠が光り輝いて非常に美しかったです。私は、アメリカのボランティア活動が盛んなところが好きです。

↓ Light the Night



最後に楽しかった出来事をお話しします。大学に入学した第1週目は夜にカーニバルがありました。私はルームメイトと行ったのですが、どのアトラクションも大行列だったので、何もしないことにしました。しかし、それをつまらないので、すれ違う人に Hello! と言い、手を振って歩き回りました。日本では無視されてしまうような状況でも、全く知らない人同士が挨拶をすることがとても意外で素晴らしいなと思いました。何人かはその後専攻などを聞いて、世間話をし、仲良くなりました。日本にいた時よりも確実に知り合いが増えるスピードが速くなりました。これは、大学院生ではできなかったと思います。学部生の良いところです。そして、私はサンディエゴのこのような気軽さや親しみやすさが大好きです。

